

たじみん昼話 104

言葉の切れ目が意味の切れ目

日常において、私たちは当たり前のように言葉を使って意思の疎通を図っている。しかし言葉の真の意味を理解して使用していることは少ない。以下に記した言葉は、真意を理解していないと、どこで切れるか回答できないものだ。どこで切れるか点を入れてみよう。

- ①無礼講 身分に関係なくやっても良いぞという・・・
- ②三半規管 耳の中にある・・・
- ③清少納言 昔の作家だね。
- ④トリケラトプス 昔いたとされる恐竜
- ⑤カメハメハ ハワイの・・・
- ⑥プエルトリコ 国名
- ⑦キリマンジャロ 山だね。コーヒーの銘柄でもある。
- ⑧ヘリコプター 飛ぶやつ

さあ、考えてみよう。

①無・礼講 ②三がみつつの、半規管。③清が清原姓で、少納言が役職名。④トリ(tri)が3つの、(keras)が角、プス(ops)が顔というギリシャ語。⑤カ(Ka)が、英語で言うところの冠詞のthe、メハメハ(meha,meha)が寂しいとか孤独というハワイ語、⑥プエルト(puerto)が港、(Rico)が美しいというスペイン語だ。⑦キリマ(kilima)が山、ンジャロ(njaro)が、輝くというスワヒリ語だ。⑧は、ヘリコ(helic)が螺旋、プター(pteron)が、翼というラテン語から来ている。 答えられたかな。